

平成29年度病虫害発生予察予報第9号（12月）

平成29年12月5日
高知県病虫害防除所

《予報の概要》

作物名	病虫害名	予想発生量※
促成キュウリ	べと病 うどんこ病 タバココナジラミ 黄化えそ病 ミナミキイロアザミウマ	<u>やや多(中央)</u> 、やや少(中西、西) 平年並(中央)、少(中西、西) 平年並(西)、少(中央、中西) 少(県下全域) 少(県下全域)
促成ナス	うどんこ病 黒枯病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	<u>やや多(中央、西)</u> 、少(東) <u>やや多(中央)</u> 、平年並(西)、やや少(東) 平年並(東)、少(中央、西) <u>多(中央)</u> 、平年並(東)、やや少(西)
促成ピーマン ・シシトウ	うどんこ病 斑点病 黒枯病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	平年並(東、中央)、やや少(中西) <u>多(中央)</u> 、平年並(東)、少(中西) <u>多(中西)</u> 、平年並(中央)、少(東) 平年並(東、中央)、少(中西) 平年並(東、中央)、やや少(中西)
促成トマト	葉かび病 すすかび病 うどんこ病 黄化葉巻病 タバココナジラミ	<u>多(中央)</u> <u>多(中央)</u> 少(中央) 少(中央) やや少(中央)

※ （ ）内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部

I 気象予報（高松地方気象台11月30日発表）

＜予想される向こう1か月の天候＞12月2日から1月1日

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1ヶ月の平均気温は低い確率70%です。

週別の気温は1週目は低い確率80%です。2週目は引く確率70%です。3～4週目は平年並または低い確率ともに40%です。

＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）＞

期間	対象地域	要素	低い(少ない)	平年並	高い(多い)	
1ヶ月	四国地方	気温	70		20	10
		降水量	30	40	30	
		日照時間	30	40	30	

＜気温経過の各階級の確率（%）＞

期間	対象地域	低い	平年並	高い	
1週目	四国地方	80		10	10
2週目		70		20	10
3～4週目		40	40	20	

＜予報の対象期間＞

1ヶ月：12月2日（土）～1月1日（月）

1週目：12月3日（土）～12月8日（金）

2週目：12月9日（土）～12月15日（金）

3～4週目：12月16日（土）～12月29日（金）

II 病虫害発生予想

1 抑制、促成キュウリの病虫害

1) ベと病

予 想 発生量：やや多（中央部）、やや少（中西部、西部）

根 拠

(1)巡回調査では県下全域で発生が見られたが、いずれの地域でも発生面積、発病程度とも平年以下であった。

(2)本病は20℃前後、多湿条件下で発病が多くなる。気温の低下とともに発病しやすい条件になるため、既発ほ場では病勢が進展すると考えられる。

対 策

(1)多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

2) うどんこ病

予 想 発生量：平年並（中央部）、少（中西部、西部）

根 拠

(1)巡回調査では県中央部、西部で発生が見られたが、いずれの地域も発生面積、発

病程度とも平年以下であった。

(2) 気温の低下にともない病勢の進展が緩慢になるため、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

3) タバココナジラミ

予 想 発生量：平年並（西部）、少（中央部、中西部）

根 拠

(1) 巡回調査では県中央部、西部で発生が見られたが、いずれの地域も発生面積、程度とも平年以下であった。

(2) 気温の低下とともに増殖が緩慢となるため、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1) 本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。

4) 黄化えそ病

予 想 発生量：少（県下全域）

根 拠

(1) 巡回調査では県下全域で発生が見られたが、いずれの地域も発生面積は平年より少なく、発病程度も低かった。

(2) 気温の低下にともない本病の媒介虫であるミナミキイロアザミウマの増殖が緩慢になるため、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1) 媒介虫であるミナミキイロアザミウマの防除を低密度時に徹底する。また、罹病株は早期に除去し、埋設するなどの処分を行う。

5) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：少（県下全域）

根 拠

(1) 巡回調査では県中西部、西部で見られたが、いずれの地域も発生面積は平年より少なく、発生程度も低かった。

(2) 気温の低下にともない増殖が緩慢になるため、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

2 促成ナスの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生量：やや多（中央部、西部）、少（東部）

根 拠

(1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は県東部では平年より少なかったが、中央部、西部ではやや多めであった。発病程度はいずれの地域も低かつ

た。

- (2) 気温の低下とともに病勢の進展は緩慢になると考えられるため、現在と同じ傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 黒枯病

予 想 発生量：やや多（中央部）、平年並（西部）、やや少（東部）

根 拠

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。県中央部、西部では平年に比べ発生面積が多く、発病程度も高かったが、東部では発生面積、発病程度とも平年以下であった。
- (2) 気温の低下とともに病勢の進展は緩慢になる。12月の気温は低めと予想されているため、本病の発生は少なくなると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

3) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：平年並（東部）、少（中央部、西部）

根 拠

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は東部で平年並、中央部、西部は少なかった。発生程度はいずれの地域も低かった。
- (2) 気温の低下にともない増殖が緩慢になるため、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

4) タバココナジラミ

予 想 発生量：多（中央）、平年並（東部）、やや少（西部）

根 拠

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。県中央部では平年に比べ発生面積が多かったが、東部は平年並、西部はやや少なかった。発生程度はいずれの地域も低めであった。
- (2) 気温の低下とともに増殖が緩慢となるため、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。

3 促成ピーマン、シシトウの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生量：平年並（東部、中央部）、やや少（中西部）

根 拠

- (1)巡回調査では県下全域で発生が見られたが、いずれの地域も発生面積、発病程度とも平年以下であった。
- (2)本病の発病適温は15～28℃、発病最適温度は25℃であるため、低温期は病勢が緩慢になる。12月の気温は平年より低いと予想されているため、現在と同じ状況が続くと考えられる。

対 策

- (1)他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 斑点病

予 想 発生量：多（中央部）、平年並（東部）、少（中西部）

根 拠

- (1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。県中央部では平年に比べ発生面積が多く、発病程度も高かったが、東部、中西部は平年以下の発生であった。
- (2)本病の発育適温は20～25℃、発病最適温度は25℃であるため低温期は病勢が緩慢となる。12月の気温は平年より低いと予想されているため、現在と同じ状況が続くと考えられる。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

3) 黒枯病

予 想 発生量：多（中西部）、平年並（中央部）、少（東部）

根 拠

- (1)巡回調査では県中央部、中西部で発生が見られた。中西部では平年に比べ発生面積が多く、発病程度も高かったが、中央部の発生面積は平年並、発病程度もやや低かった。
- (2)気温の低下とともに病勢の進展は緩慢になる。低温期の病勢進展はほとんどないため、現在と同じ状況が続くと考えられる。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

4) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：平年並（東部、中央部）、少（中西部）

根 拠

- (1)巡回調査では県下全域で見られたが、いずれの地域も発生面積は平年以下であった。発生程度は県中央部、中西部では平年に比べ高めであったが、東部は低かった。
- (2)気温の低下にともない増殖が緩慢になるため現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

5) タバココナジラミ

予 想 発生量：平年並（東部、中央）、やや少（中西部）

根 拠

- (1)巡回調査では県下全域で見られたが、いずれの地域も発生面積は平年以下であった。発生程度は県中央部、中西部で高めであったが、東部はやや低かった。
- (2)気温の低下とともに増殖が緩慢となるため現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1)本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。

4 促成トマトの病害虫

1) 葉かび病

予 想 発生量：多(中央部)

根 拠

- (1)巡回調査では平年に比べ発生面積が多かった。下葉中心の発生であったが、発病程度も平年に比べ高めであった。
- (2)本病の発病適温は20～25℃程度であるため、この時期の病勢進展はほとんどないと考えられる。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

2) すすかび病

予 想 発生量：多(中央部)

根 拠

- (1)巡回調査では平年に比べ多めの発生であった。下葉中心の発生であったが、発病程度も平年に比べ高めであった。
- (2)本病の発病適温は26～28℃程度であるため、この時期の病勢進展はほとんどないと考えられる。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

3) うどんこ病

予 想 発生量：少(中央部)

根 拠

- (1)巡回調査での発生は見られなかった。
- (2)本病の発病適温は20～25℃であるため、この時期の発生はほとんど無いと考えられる。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

4) 黄化葉巻病

予 想 発生量：少(中央部)

根 拠

- (1)巡回調査のごく一部で発生が見られた程度であり、発病程度は低かった。
- (2)気温の低下にともない、本病の媒介虫であるタバココナジラミの増殖が緩慢になるため、現在の状況が続くと考えられる。また、野外から施設内への侵入は無くなるため、現在、発生していないほ場での新たな発生はないと考えられる。

対 策

- (1)媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。また、罹病株はほ場外に持ち出し、埋設するなどして処分する。

5) タバココナジラミ

予 想 発生量：やや少(中央部)

根 拠

- (1)巡回調査では一部のほ場で発生が見られた程度であり、寄生密度も低かった。
- (2)気温の低下とともに増殖が緩慢となるため、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1)本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。また、本虫は黄化葉巻病を媒介するので注意する。

農作物の病害虫防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病害虫防除所ホームページ (こうち農業ネット)

- ①病害虫発生予察月報、病害虫発生予察予報
- ②病害虫発生予察注意報、病害虫発生予察警報、病害虫発生予察特殊報
- ③病害虫発生予察技術資料
- ④新しく問題となっている病害虫 etc.